

ハーバート・テラーからの手紙

2680 地区 PDG 田中 毅

1970年10月に芦屋ロータリークラブ入会した私は、直ちに副幹事に任命されました。ロータリーに関して右も左も解からない私は、当時神戸東ロータリークラブの会員だった安福武之助さん（1977年ガバナー）の紹介で入った関西ロータリー研究会を通じて、ロータリーの勉強をしました。安福さんは灘の銘酒・福寿の社長で、しばしば工場を訪れた私に、飴色の古酒をふるまってロータリー談義をしてくれました。

1972年7月、幹事に就任した私は、四つのテストの翻訳に疑問を感じて、安福さんに尋ねました。同氏は疑問があったら本人に直接聞くべきだと言いましたので、1972年9月 シカゴ・ロータリークラブ気付でハーバート・テラー氏に手紙を出しました。

ハーバート・テラー氏略歴

1893 生まれ。シカゴ・ロータリークラブ会員。

敬虔なプロテスタント教徒、YMCA に勤務後、不動産・石油リース会社経営。

四つのテストは、1932年、倒産寸前のクラブ・アルミニウム社再建に当たって作った標語であり、ローマカトリック信者、クリスチャンサイエンス信者、正統派ユダヤ教徒、長老派教会員を呼んで、それぞれの宗教上の教義に反しないことを確認した上で発表。

1954年RI会長の時に、その著作権をRIに譲渡。

キリスト教勤労者財団を設立。

1978年5月3日逝去 85歳

注・クリスチャンサイエンスはアーサー・シェルドンが属していたキリスト教宗派

手紙を出したことを忘れかけた頃、1972年年末に返事が届きました。

その手紙の内容の概略は次のようなものでした。

◎多くの手紙を頂き、その全てに返事を出しているのも遅れたこと。

◎100ヶ国語に翻訳されていますが、適切な翻訳がされているものと信じていること。

◎神の啓示によって、私の頭に浮かんだフレーズであり、私ではなく、神が作った言葉であること。

◎会社再建のために作り、営業活動の指針として用いるための標語であること。

なお、この手紙は、家宝として大切に保存していたのですが、阪神大震災によって消失しました。

当初、会社再建、営業活動の指針として用いたことに拘った解釈をしていましたが、ハーバート・テラーの「我が自叙伝」には、次のような記載がありましたので、急遽一般向けの情報提供に変更しました。

◎YMCAを通じる青少年育成に、四つのテストを使ってもらいたい。

◎日本のクラブが行っている、駅に雨傘を置く制度は、貸す側、借りる側双方に利益と信頼をもたらす、絶好の四つのテストの実践例である。

◎四つのテストは、世の中全てのことに適応すべきである。学校、職場、公共の場に展示してもらいたい。

この説明を尊重して、配布対象を一般社会に拡大した私の解釈は次の通りです。

Four Way Test 単数なのでこの四つが全てそろう必要がある。

◎Is it the truth? 真実かどうか

真実というのは、「80%の真実」という言葉が示すように、人間の心を通じたアナログ的な判定であるのに対して、事実とはその事実があったのか、無かったのかの二者択一を迫るデジタル的判定ですから、ここでは「**事実かどうか**」という言葉を用いるべきでしょう。

◎ Is it fair to all concerned? みんなに公平か

不正に得た金でも公平に分ければよいこととなります。fair は公平ではなく公正と訳すべきでしょう。all concerned は関係者全員のことを意味します。従ってこのフレーズは「**すべての関係者に公正か**」ということの意味します。

◎Will it build goodwill and better friendship? 好意と友情を深めるか

goodwill は単なる好意とか善意を表す言葉ではなく、信用とか評判を表す言葉です。すなわち、その行為が貴方の信用を高めると同時に、よりよい人間関係を築き上げるかを問うものです。「**信用を高め、友情を深めるか**」という意味です。

◎Will it be beneficial to all concerned? みんなのためになるかどうか

Benefit は「儲け」そのものを表す言葉です。ただし、売り手だけが儲かった、また買い手だけが儲かったのでは公正な取引とは言えません。その取引によって、すべての関係者が適正な利潤を得るかどうか問題なのです。「**すべての関係者に利益をもたらすか**」という意味です。

どなたか、これを7・5調にまとめていただけませんか。